

CORPORATE GUIDE

会社案内





代表取締役社長

武富和彦

時代は大きな変革期を迎えています。2020年は新型コロナウイルス感染症の流行拡大で世界中が大混乱に陥りました。国内政治では、歴代最長7年8カ月続いた安倍政権が終わりました。さまざまな意味で不安定感、不確実性が漂う世の中になっていますが、だからこそ、新聞社が存在することに意味があり、存在価値があらためて見直されると確信しています。デジタル化が進む中、新聞は時代遅れだという指摘があることは承知しています。インターネットを使えばあらゆる情報が手に入ることは確かです。その一方で、ネット上では真偽不明の情報が飛び交い、人々の不安をまねき、惑わせ、かく乱する事態も起きています。こういう時代だからこそ、政治・経済・文化・環境・健康・福祉などあらゆる事象に向き合い、より客観的に事実を伝え、背景を探り、解説・論評して発信する新聞の役割は大きいと自負します。

沖縄タイムス社は1948年7月1日に創刊しました。中心メンバーは戦前の新聞人です。軍国主義の時代だったとはいえ、戦意をまねき人々を戦争へ駆り立てたジャーナリストとして、重い戦争責任を負った出発でした。戦後75年の歳月を経て、第二次世界大戦は遠い昔の出来事として語られがちですが、沖縄タイムス社は創刊の原点を忘れることなく、戦争につながる一切を拒絶して平和を希求することを基本理念としています。同時に、創刊2日前に「通貨切り替え」号外の発行で表舞台に登場した稀有な歴史もあります。

熱いジャーナリスト魂と前例にとらわれない柔軟性一。その社風は今日にも受け継がれ、時代の波に対応した新聞社としても変化を続けています。新聞のデジタル発行だけでなく、告別式情報をいち早く伝えるアプリの開発、コロナ禍において停滞した経済活動を支援したクラウドファンディング、需要が落ち込んだ農産物を買ひ物に出かけられない高齢者に届ける野菜宅配事業など、人々のニーズにこたえる事業展開にも挑戦しています。報道だけにとどまらず、必要なモノ、コトを人々に届ける。個と個をつなげる「Link」の役割を担うのも重要な責務だと認識しています。

1人ひとりの声に耳を傾け、社会の隅々に目を凝らし、県民に心を寄せる。それが沖縄タイムス社です。変えてはいけぬ創刊の原点は頑固に守ります。同時に、変えなければならないことは柔軟に変えます。挑戦を忘れず、変化を恐れない新聞社。沖縄タイムス社は、新鮮な目、たくましい行動力、挑み続ける気概を持った新しい力を求めています。

社是

- 一、沖縄タイムスは 言論の自由 責任 公正 気品を堅持する
- 一、沖縄タイムスは 民主主義に則り 文化社会の建設を推進する
- 一、国際信義に基づき 世界平和の確立に寄与する

編集綱領

- 一、報道 論評の自由を堅持すると同時に これに伴う責任を正しく遂行する
- 一、報道は つねに真実 迅速を旨とし いかなる権力 圧力にも屈せず公正を期す
- 一、論評は あくまで不偏不党 中正を持し 正しい世論を代表する

沖縄タイムス

記事を書く

政治、経済、事件、教育、文化、スポーツ。

1948年の創刊以来、沖縄タイムスの記者は、1日も途切れることなく、人々の日々の営みや県内外の様々な出来事取材し、伝え続けてきました。

技術が進歩し、インターネットを通じて情報が瞬時に世界に伝わり、手に入れられるようになって、情報をキャッチし、人に会い、話を聞き、言葉にして伝えるのは人間の仕事です。ニュースの現場で、あなたのそばで、新聞記者は今、この瞬間も、取材を続けているのです。



政経部

基地問題や行政、県内市町村や国政選挙の取材をする県政班、県内の経済活動を追う経済班で構成されます。

社会部

事件・事故、裁判、福祉や教育、離島などの地域のニュースも含め、県民生活全般をカバーする部署です。

学芸部

沖縄の美術や工芸、伝統芸能、アーティストの活動など文化的な営みを幅広く取材し、紹介しています。

運動部

中学生や高校生のスポーツから、国内外で活躍する県出身のプロ選手の活躍まで、スポーツの魅力伝えていきます。

写真部

決定的瞬間を一コマに切り取るプロ集団。心を和ませる美しい自然や、人々の表情も届けます。

デジタル部

スマートフォンなどの急速な普及に伴い、ニュース・情報の届け方や、ニュースを盛る“器”は、日々変化し続けています。デジタル社会のニーズを探りハード・ソフトの両面から新たな新聞、ニュースの届け方に日々チャレンジしています。



2020年度新聞協会賞受賞

2019年10月31日未明に発生した首里城火災を伝えた写真で構成する本紙の「焼け落ちた沖縄の象徴」が2020年度の新聞協会賞を受賞。小型無人機ドローンで火災の決定的瞬間を圧倒的迫力で捉えた一枚や悲しみに暮れる女子高校生など、衝撃的な「一日」に多角的に迫った写真が高い評価を得た。

広告をつくる

紙面を構成する大きな柱の一つが、個性豊かな広告です。新商品やイベントの告知など、人々の生活に必要な情報を、きめ細かくカバーする。それが新聞広告の力です。紙面での広告だけでなく、県内最大のスポーツイベントであるNAHAMARATHONの運営をはじめ、企業PRを考える広告主の要望に沿ったさまざまなイベント企画にも関わっています。



読者に届ける

雨の日も風の日も、読者の手元に届く新聞。約 500 の販売店を拠点に、1,300 人のネットワークランナー（配達員）が新聞産業を支えています。そんな彼らをマネジメントするのが読者局の仕事です。『迅速・丁寧・きめ細かい対応』をモットーに販売店主に寄り添って読者サービスに取り組んでいます。美術・工芸や伝統芸能、音楽、スポーツ、文学、教育など、さまざまな文化事業も企画、運営しています。

新しいビジネスを立ち上げる

クラウドファンディング『Link-U』の開設、交流型コワーキングオフィス『howlive』の運営、他社との資本業務提携を行うなど、新たな新聞社のビジネスを日々模索しています。地域の物産などを広く紹介する『ふるさと元気応援企画』などをはじめ、出版物を通して沖縄の文化振興の一翼を担っています。近年では社内の横断的な取り組みで告別式情報のアプリ開発などの新サービス開拓にも取り組んでいます。



沖縄の今をここから。 ビジネス・文化の情報発信拠点 イベント & コワーキングオフィス

3F イベントホール

タイムスホールは、移動式の客席があり、講演会や発表会等の舞台芸術から、美術展やレセプション等の平場スタイルでの催しなど、各種イベントを開催。

- ・客席面積：335㎡
- ・客席天井高さ：7.8m
- ・舞台開口：13m×5m
- ・楽屋[3F]16人[4F]20人
- ・ホワイエ面積：68㎡
- ・ホワイエ天井高さ：3.5m
- ・利用時間：午前9時～午後10時

シアター形式：客席数 356 座席+車椅子 2 席
スクール形式：客席数 126 座席
※平土間形式でも使用可能です。



2F レンタルオフィス howlive ギャラリー

テレワーク、ワーケーションに最適なシェアードワークスペース（シェアオフィス／コワーキングスペース）。高セキュリティな通信環境、専有個室、コミュニケーションエリア等を完備。またギャラリースペースでは、展示会や講座など小・中規模のスペースとして活用可能。

- ・[howlive 沖縄タイムスコワーキングスペース]：131㎡
- ・天井高さ：2.85m
- ・ギャラリー面積：125㎡

テーブル・座席配置：約30席
ギャラリー形式：用途に応じて対応可



1F エントランス

エントランスは、屋外と連結したスペースがあり、新車の展示販売や地域の物産展、ビアガーデンなど幅広い催し物に対応できるスペースです。キッチンカーによる移動販売など、オフィス街の交流空間となっている。

- ・面積：80㎡
- ・利用時間：午前9時～午後6時



Staff Interview



社員の一を紹介



國吉 匠

【営業局】2020年4月入社

学生時代は勉強で文字を読むよりも部活に熱中していて、新聞社で働いているとは考えてもいませんでした(笑)

タイムスに入社してみて感じたことは良い意味で上下関係がありません。若手でも自ら感じたことを発信できる環境です。また、11月からフリーアドレス化したことで、局をまたいで話がしやすくなり各関連会社も同じ階にいることから色々な話が聞け、相談ができます。

志望動機

前職でタイムスの記者と関わりがあったことがきっかけです。市の行政から小さなイベントまで幅広く書く姿をみて志望しました。現在は営業局に在籍し広告の営業をしています。部署環境もすごくいいので、皆様の受験をお待ちしています。

学生のみなさんへ

初めての就職活動で何もわからないうえに、コロナ禍によって説明会やインターンシップに参加できなかったりと不安なことだらけだと思います。こんな時だからこそ職種にこだわらず様々な分野を受験してみて自分に合った就職先を見つけてください。自分を見つめ直す良い期間だと思って楽しんで取り組んでください！

國吉さんの1日のスケジュール

10:00

出勤

スケジュール確認
メールチェック
本紙・他紙の
広告チェック

12:00

お昼ご飯

自分で手作り

13:00

外回り

クライアント
訪問など

17:00

退社



又吉 朝香

〔編集局〕2020年4月入社

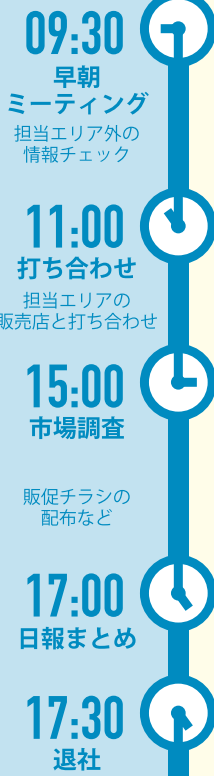
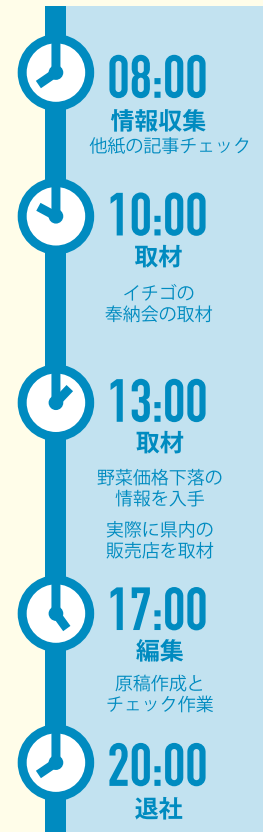
経済班の農業担当記者として、野菜価格の推移や農林水産物の出荷状況などを取材しています。大学時代はアメリカ文学を専攻していて、今の取材内容とは全く違うことを学んでいました。しかし、取材先はその道の専門家。一から弟子に説明するように私にも丁寧に説明してくれるので、私も読者に分かりやすい記事を届けようと、日々勉強の毎日です。特技はよく笑い、よく飲むこと(笑)。経済班なので外部との飲み会も多く、企業の人とおしゃべりしながら、ネタ探しにも励みます。

志望動機

大学時代に運動部でアルバイトをしていました。運動部の皆さんに私が記者になりたいと伝えたと、就活でのアドバイスをくれたり、春の甲子園の取材に連れて行ってくれて取材をさせてくれたりしました。こんな優しくて頼りがいがある先輩たちと働きたいと思ったことが決め手で、タイムスで記者になりたいと思いました。入社した今も迷ったことがあれば、すぐ先輩に相談しています。ランチを食べながら取材の内容を相談したり、記事の方向性を話し合ったり、何でも相談できる先輩に恵まれていると日々実感しています。

学生のみなさんへ

自分が興味のあることに、何でも挑戦してみることが大切だと思います。私は英語の先生になりたいと英語の教育免許が取れる大学に入学したのですが、実際にインターンシップに参加してみると「今は先生になりたいと思わない」と考えて辞めたり、雑誌の編集者になりたいと思い社内見学してみると、「自分とは世界が違うな」と思って諦めたり、タイムスの運動部でアルバイトをしてみても「これだ」と思ったりなど。実際に体験することで、今まで知らなかった自分が分かってくるかもです。



志望動機

学生時代はとことんスポーツに打ち込んでいました。その中でチームや個人が活躍する記事や、一番の見せ場を切り取った報道写真を通して感動することもしばしば。「将来はスポーツの感動を伝えられる仕事に就きたいな」と考えていました。特に沖縄のメディアは、県出身のアスリートの活躍を一番身近に伝えられる最高の職業と考えていたので沖縄タイムスを志しました。

学生のみなさんへ

学生のみなさん、新聞は購読していますか？ウェブやSNS上にアップされている自分の好きな情報ばかりに目を通していますか？新聞は多くの記者がさまざまな現場に足を運び、見聞きし得た情報が満載です。世の中の動きを把握するだけでなく、他人が知らない情報を基に話題を作るコミュニケーションツールにもなります。就職はゴールではなく、数十年続く社会人人生の入り口にすぎません。今以上に厳しい局面は必ずあります。あなたを助けるヒントや近道を新聞が教えてくれるかもしれませんよ。



仲本 大地

〔読者局〕2011年4月入社

入社10年の仲本大地です。入社時から新聞社の売上を支える読者局という重要なポジションで、新聞を購読して頂いているお客さま(読者)の管理や、沖縄タイムス販売店の事業経営・運営をサポートするお仕事を担当しています。2018～20年まで経済記者(観光担当)を経験したこともあります。今の業務は入社当初に目指していた仕事とは異なりますが、1人でも多くのタイムスファンが増えることに日々やりがいを感じています。時には購読中止の連絡を受け落ち込むこともありますが、担当するエリアの販売店主さんたちとアイデアを出し合いながら、地元から選ばれる新聞社を目指して日々努力を積み重ねています。

沖縄タイムス 読者と歩んだ歴史

『沖縄タイムス』は、沖縄戦で荒廃した郷土に立ち、米国の施政権下において、住民の声を伝え、復興の歩みを記録してきた。沖縄はまだまだ困難な歴史の過程にある。私たちは先人たちが築いてきた信頼を基に、県民とともに歩む報道を続け、創造力のある事業でよりよい未来を開きたい。

- 1945 (昭和 20)
 - 3.26 米軍が慶良間諸島に上陸。4月1日に沖縄島に上陸。地上戦で20万人以上が死亡
 - 5.25 首里城地下の壕で『沖縄新報』廃刊
- 1948 (昭和 23)
 - 6.28 『沖縄タイムス』発刊を米軍が認可
 - 6.29 通貨切り換えのスクープを『沖縄タイムス』号外として発行
 - 7.1 『沖縄タイムス』創刊①
 - 12.30 崇元寺向かいにコンセットづくりの社屋完成②
- 1949 (昭和 24)
 - 7.2 第一回沖縄美術展覧会 (沖展)開催
- 1950 (昭和 25)
 - 1月 コザ通信部 (現在の中部支社)開設
 - 2月 宮古支局開設
 - 3月 名護支局 (現在の北部支社)開設
 - 8月 関西支社開設
- 1951 (昭和 26)
 - 8月 関西支社開設
- 1952 (昭和 27)
 - 4.28 サンフランシスコ講和条約発効、日米安保条約発効。沖縄が公式に米統治下に置かれる
 - 7月 八重山通信部 (現在の支局)開設
 - 12.15 社是・編集綱領を制定
- 1953 (昭和 28)
 - 4.11 「土地収用令」により、米軍による強制的な土地接收始まる
- 1954 (昭和 29)
 - 6.11 第一回新人芸能祭開催
- 1956 (昭和 31)
 - 6.20 プライス勧告反対・軍用地四原則貫徹住民大会開催 (島ぐるみ闘争)
 - 7.2 第一回沖縄タイムス賞贈呈式
 - 7.6 久茂地の社屋に移転完了③
- 1959 (昭和 34)
 - 6.30 宮森小学校に米軍ジェット機が墜落し、17人が死亡
- 1961 (昭和 36)
 - 9.30 新聞各社と協力して建立した戦没新聞人の碑除幕④
- 1963 (昭和 38)
 - 8.19 「みどり丸遭難事件」で取材しながら人命救助し、唯一の水中写真を撮影。翌年日本新聞協会から特別表彰
- 1966 (昭和 41)
 - 1.21 沖縄タイムス芸術選賞を創設
 - 4.29 季刊『新沖縄文学』創刊 (93年に休刊)
 - 2.5 『新沖縄文学』4号に大城立裕氏の「カクテル・パーティー」を掲載。7月に沖縄初の芥川賞受賞⑤
- 1967 (昭和 42)
 - 6.7 沖縄政経懇話会設立
- 1968 (昭和 43)
 - 8.14 住民の視点で取材した「毒ガス移送報道」が日本ジャーナリスト会議奨励賞を受賞⑥
- 1971 (昭和 46)
 - 5.15 沖縄が日本復帰
 - 7.1 伊波普猷賞創設
- 1972 (昭和 47)
 - 9.8 TWA機墜落事故発生。本社主催事業のヨーロッパ産業視察団が搭乗。上地一史社長ら13人死去
- 1973 (昭和 48)
 - 2.10 沖縄タイムス出版文化賞創設
- 1974 (昭和 49)
 - 5.30 『沖縄大百科辞典』を発行。3万部を売り上げる⑦
 - 12.8 第一回NAHAマラソン開催⑧
- 1980 (昭和 55)
 - 11.6 第一回沖縄県トータルリビングショウを開催
- 1983 (昭和 58)
 - 6.10 第一回民踊フェスティバル開催
- 1985 (昭和 60)
- 1987 (昭和 62)
- 1990 (平成 2)



- 1992 (平成 4) 11.3 首里城が復元され、首里城公園開園^⑨
- 1995 (平成 7) 6.23 沖縄戦などの戦没者名を刻んだ平和の礎除幕^⑩
- 10.21 日米地位協定見直しなどを要求し県民総決起大会開かれる約 8 万 5000 人が参加^⑪
- 1996 (平成 8) 9.8 米軍基地の整理・縮小などの賛否を問う県民投票実施。投票率 59.53% で、投票総数の 89% が「整理・縮小」に賛成だった
- 10.15 「50 年目の激動一総集 沖縄・米軍基地問題」が日本新聞協会賞を受賞
- 1998 (平成 10) 7.19 子供向け新聞「タイムス・ワラビー」創刊
- 12.12 新聞制作システム「OCEAN」が稼働。翌年 10 月に日本新聞協会賞 (技術部門)を受賞
- 1999 (平成 11) 4.4 沖縄尚学高校が第 71 回選抜高校野球大会で県勢初優勝。5 日付で初の 1 面最終面見開き紙面を制作
- 10.31 UP センター (現・タイムス印刷)が浦添市伊奈武瀬に完成。新輪転機が稼働
- 2000 (平成 12) 7.21 九州・沖縄サミット開催
- 2002 (平成 14) 1.1 本社が那覇市おもろまちの那覇新都心メディアビルに移転、業務開始
- 2003 (平成 15) 7.1 「沖縄タイムス」の題字を変更^⑫
- 2004 (平成 16) 7.17 第 1 回タイムス・ワラビー祭りを沖縄こどもの国で開催
- 8.13 米軍ヘリが沖縄国際大学に墜落^⑬
- 10.20 紙齢 2 万号
- 2006 (平成 18) 11.3 多目的取材車「ワラビー GO!」導入^⑭
- 11.19 県知事選で稲嶺県政の継承を掲げた仲井真弘多氏が当選。辺野古への「V 字型滑走路の現行案には反対」と述べた
- 2007 (平成 19) 1.11 (株)沖縄文化の社を設立。5 月、沖縄タイムス社、国際ビル産業との 3 社 JV が県立博物館・美術館の指定管理者に
- 9.29 「教科書検定意見撤回を求める県民大会」に 11 万人が参加
- 2008 (平成 20) 10.18 第 1 回タイムス地域貢献賞贈呈式
- 2010 (平成 22) 2.11 県産品応援新聞「かなさうちなーむん」開始
- 7.20 有料モバイルサイト「NEWSmart」サービス開始
- 8.22 第 92 回全国高校野球大会で興南高校の県勢初の春夏連覇を伝える紙面で、ニュース紙面で初のラッピング^⑮実施
- 2011 (平成 23) 3.11 東日本大震災発生
- 3.14 東日本大震災関連で「夕刊特別号」として 19 日まで毎日 4 ページを発行、宅配
- 2012 (平成 24) 9.9 オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会
- 10.1 米軍普天間飛行場にオスプレイ配備
- 12.3 那覇市久茂地に新社屋「タイムスビル」完成^⑯
- 2013 (平成 25) 1.1 4 コマ漫画「おぼあタイムス」が社会面で毎日連載に
- 1.25 第 1 回ふるさと元気応援企画「いめんしよ伊江島んかい芸能・物産フェア」開催
- 1.27 オスプレイ反対東京行動で、全 41 市町村の代表が配備反対をアピール
- 7.7 しまくとぅば新聞「うちなあタイムス」創刊
- 11.22 電子新聞「沖縄タイムス+プラス」創刊^⑰
- 2014 (平成 26) 10.10 戦後 70 年企画「戦世からぬ伝言」を紙面とウェブ上で展開
- 11.16 県知事選で辺野古新基地建設反対を掲げた翁長雄志氏が当選
- 2015 (平成 27) 11.26 「沖縄タイムス自分社」サービス開始
- 2016 (平成 28) 2.9 沖縄こども未来プロジェクト創設
- 5.19 女性暴行殺害事件で元米海兵隊員逮捕
- 6.19 「被害者を追悼し海兵隊の撤退を求める県民大会」開かれる
- 10.20 クラウドファンディングサイト Link-U 開設
- 2017 (平成 29) 4.2 「週刊 沖縄空手」スタート
- 12.05 「沖縄タイムス伝統芸能選考会・芸能祭」メセナアワード優秀賞受賞^⑱
- 8.1 求人情報事業の「びねつ」と資本提携
- 2019 (令和 元) 12.1 コワーキングスペース「howlive」開業
- 2020 (令和 2) 10.8 首里城火災「焼け落ちた沖縄の象徴」が日本新聞協会賞を受賞^⑲



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬

⑭



⑮



⑯



⑰



⑱



⑲